

第20回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成20年2月

応募者名：富山市 都市整備部 路面電車推進室

事業の名称：都市計画道路

富山ライトレール線整備事業

実施都市名：富 山 市

事業の目的

富山ライトレール線整備事業は、既存の富山港線を路面電車化し、身近な公共交通機関として再生を図るものであり、北陸新幹線富山駅の整備や富山駅付近連続立体交差事業の完成後に、新たな富山ライトレール線が鉄道高架下を通り、駅南の既存の路面電車と接続されれば、鉄軌道の南北軸が構築され、本市の公共交通ネットワーク形成と中心市街地活性化に大きな役割を果たすものである。

事業概要

事業名：都市計画道路

富山ライトレール線整備事業

路線名：富山ライトレール線

事業箇所：富山市明輪町～富山市永楽町

事業延長：1.1km

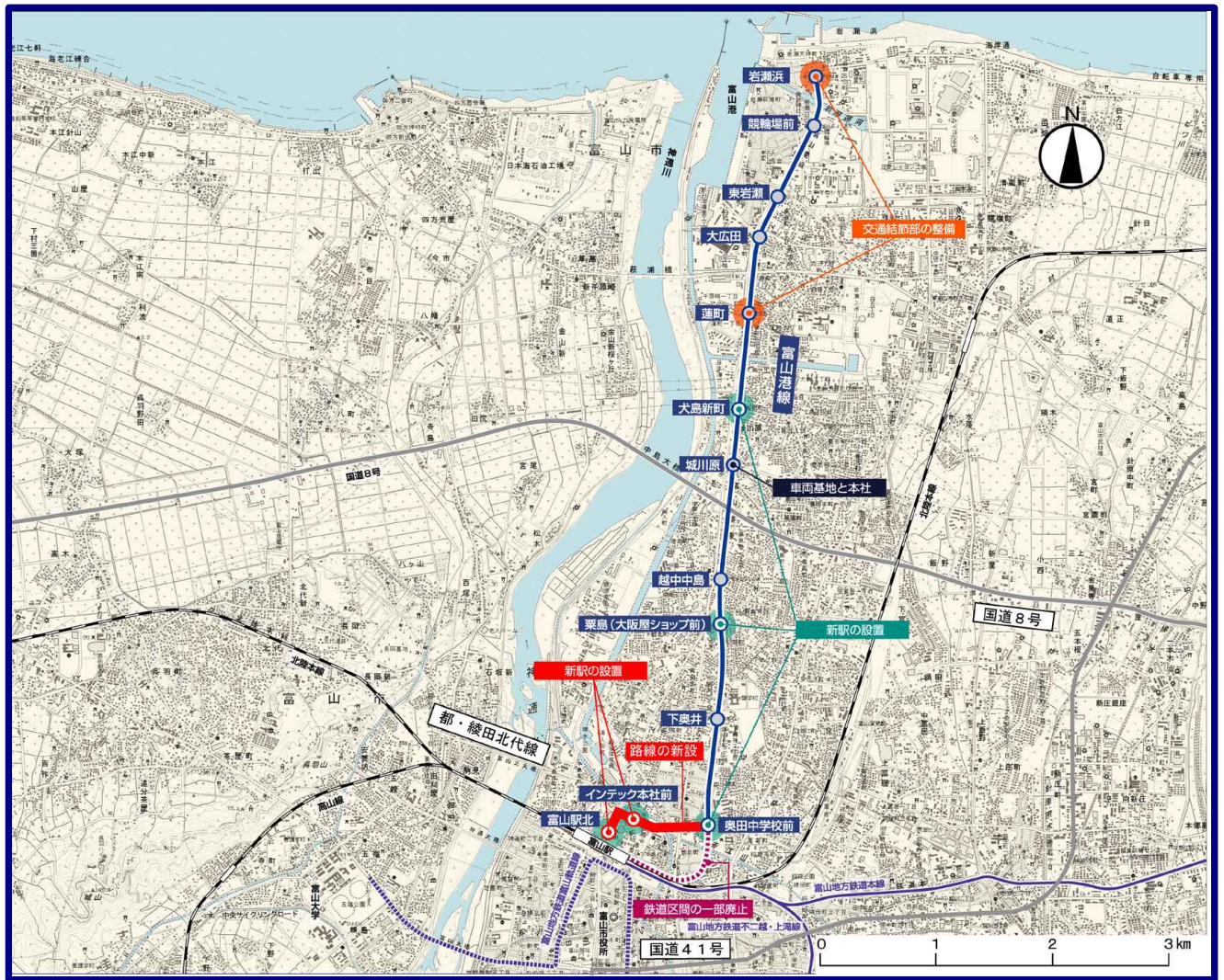
幅員：3.0m(軌道幅)

総事業費：9億円

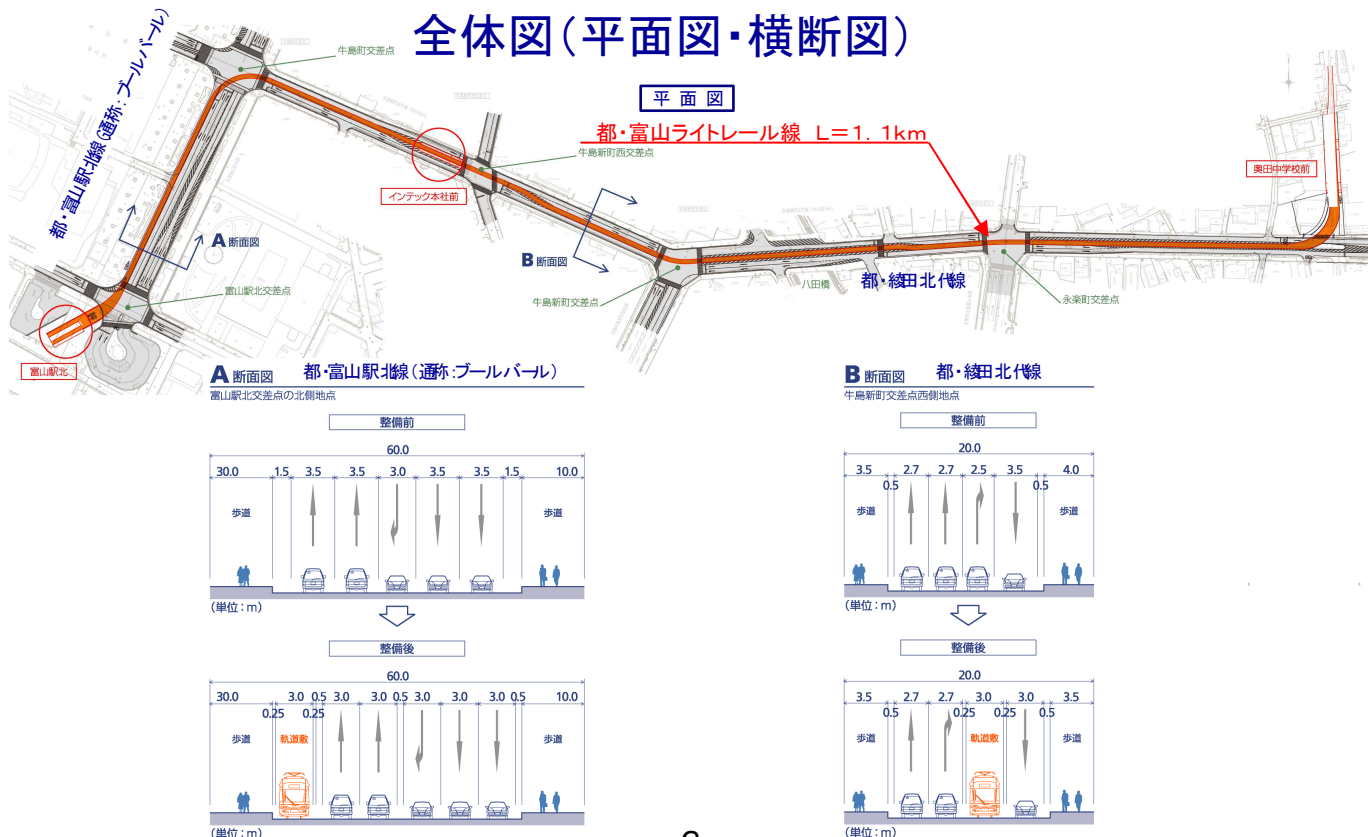
事業期間：平成17年～平成18年

本事業は、富山駅北と奥田中学校前駅を結ぶ約1.1kmの区間に軌道路盤を敷設したもので、併せて、その間にある八田橋の軌道幅だけの鋼製桁の新設架け替え、バリアフリーに配慮した停留場2箇所の新設及び軌道と車道の融雪装置を設置している。この事業で整備した併用区間約1.1kmとJR富山港線の既存鉄道区間を合わせた約7.6kmで富山ライトレールとして再生したものである。

事業位置図



全体図(平面図・横断面図)



都・富山ライトレール線の整備効果アピール資料



○事業概要

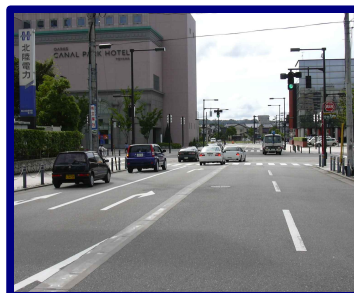
事業名: 都市計画道路富山
ライトレール線整備事業
路線名: 富山ライトレール線
事業箇所: 富山市明輪町
～富山市永楽町
事業延長: 1.1Km
幅員: 3.0m(特殊街路)
総事業費: 9億円
事業期間: H17～H18年度(繰越完成)

○整備効果把握調査(H18.10.5 調査)

利用者の変化
平日 2,266人/日 → 4,988人/日
休日 1,045人/日 → 5,576人/日
ライトレール利用者の以前の交通手段
JR富山港線 46.7%
地鉄路線バス 13.3%
自動車 11.5%
タクシー等 3.5%
新規 20.5%
ライトレールに対する評価 9割評価する

「整備効果」

○富山ライトレール利用者の増加
平日で2倍強 休日で5倍強の増
○まちづくりへの機運の高まり
岩瀬の歴史的建物を活用した町おこし
○来街者(視察)の増加
約500団体 5,000人が来富
○自動車からの転換によるCO₂の削減
年間約436トン削減



事業前: H17. 4



事業後: H18. 5

事業前写真

平成16年4月撮影



平成16年4月撮影



平成16年4月撮影



平成18年5月撮影



平成18年5月撮影



平成18年5月撮影

